

平野博之さん安らかに

—「精神障害者」差別の現実を許さない—



1983年8月原因不明の病気で倒れる直前の平野さん

八王子・赤堀さんと共に闘う会の創成時一九七六年からの会員であった平野さんが六月二七日五日市町の日の出ヶ丘病院といういわゆる「姥捨て山」病院で亡くなりました。享年四八歳です。

彼は「精神障害者」（軽い「精神薄弱」）だということで兄弟から見放され、遺体や遺骨の引き取り手がないのです。病院も最初は立川市内の総合病院に入院していたのですが、福祉事務所は金のかからない奥多摩の五日市線の終点五日市駅から1時間に一本しか動いていないバスで三〇分のいわゆる「姥捨て山」病院の男女同室の大部屋に転院させられていました。若いのに「精神障害者」だということとで、その老人病院の痴癡老人病棟に入れられていました。

生活保護者の葬祭とは。日本国憲法で保障された「最低限の文化的生活」とはこんなものなのです。福祉事務所から支給される葬祭費は十四万九千円以内で、通夜はもちろん告

御木野病院から退院し、仕事も持续し、アパートを借りて自活生活も維持できたいわば「社会復帰」したけれど、いったん病氣したとたん家族の協力がなければ、「精神障害者」の現実はいかに厳しいのです。

病院から直送され、火葬場の安置室においてあった平野さんの遺体を見てみると、何と眼はカッと見開き、口元までタンの詰まった喉が見える状態でした。多分これだとタンによる窒息死ではないかと思われました。

「ほつと」編集部

ほつと

第11号

1995, 7, 15発行

定価30円

編集責任者 堀部 正
発行 行 「ほつと」編集部
連絡先 八王子市高円寺四丁目一〇番地三〇号
代表 多田 道夫
電話 FAX 〇三六二七九六五五
郵便振替 〇〇八〇七六六六（ほつと）八王子

御木野病院から退院し、仕事も持

続し、アパートを借りて自活生活も維持できたいわば「社会復帰」した

けれど、いったん病氣したとたん家

族の協力がなければ、「精神障害

者」の現実はいかに厳しいの

です。

病院から直送され、火葬場の安置

室においてあった平野さんの遺体を

見てみると、何と眼はカッと見開

き、口元までタンの詰まった喉が見

える状態でした。多分これだとタン

による窒息死ではないかと思われま

した。

生活保護者の葬祭とは。日本国憲

法で保障された「最低限の文化的生

活」とはこんなものなのです。福祉

事務所から支給される葬祭費は十四

万九千円以内で、通夜はもちろん告

(一頁からのつづき)

別式もまかなえません。兄弟から見放された遺体はそのまま家族、親類、知人などの知らない所でお棺に



1989年8月赤堀さんを奪還した年の夏にみんなで一泊の海水浴をした時の記念写真

入れられ、病院から火葬場まで直送され、読経もなく、火葬されるところでした。

八王子・赤堀さんと共に闘う会と私

たちは、平野さんのために集め

た基金で彼の宗派の坊主を頼んで、読経してもらい、火葬にふしました。葬儀を行おうともしなかった兄夫婦はしぶしぶ駆けつけ、私たちと一緒に平野さんを送りました。しかし、平野さんの遺骨を引き取ろうともしせず、また先祖や両親の入っている郷里の墓に入れてもくれません。私たちは生前の平野さんを知るすべての人にできる範囲で連絡し、火葬場へ来てくれること、来られない方は弔電を打ってもらうことをお願いしまし

た。その結果、兄夫婦にも「こんなに多くの方々から仲良くしてもらえたのですね」と言ってもらえたものの、平野さんは無縁仏となる運命なのです。

人の「生」はその人の「死にざま」に示される、と言われますが、これが「精神障害者」の生と死なのです。しかし、平野さんの「生」とは、「八王子・赤堀さんと共に闘う会」から投稿された追悼文にも示されているように、彼は最後まで持ち前の明るさと心優しさを忘れず、病院でも人気者でした。そして、私たちはかれが憎んでいた、そして死んだあとまで受けた「精神障害者」差別を必ずなくすために共にたたかいまししょう。二度と平野さんのような

(三頁に続く)

目に私たちの仲間を合せないよう
にするために。

【投稿】平野博之氏の死を悼む

会 闘うと共にさんと堀赤・王子八

一九九五年六月二七日、平野博之氏が西多摩郡五日市町の日ノ出ヶ丘病院で亡くなった。享年四八歳であつた。

「精神障害者」であることを理由に、静岡県島田市で起きた幼女誘拐殺人事件の犯人にでっち上げられた赤堀政夫氏の救援活動を平野氏は、私たちと共に先頭でたたかった。

平野氏は大田区の町の鉄工所で「精神障害者」差別ゆえの低賃金にもか

かわらず、黙々と働いていた。日頃から無口であり自分から話をしようとはしなかったが、心底から性格の優しい人であつた。私たちが彼のアパートに遊びに行くと、近くの食堂に連れて行って、心からもてなしてくれたものでした。「精神障害者」仲間にはとても面倒見がよく、誰からも慕われていました。八王子・赤堀さんと共に闘う会の事務所で行った食事会などでは、小柳ルミ子の「私の城下町」を好んで歌い、一度マイクを握ったら離さないほどの歌好きであつた。病に倒れた後も、寝たつきりになりながらも、決してあきらめず、「また元気に働きたい」と常々口にしていた。彼は、病とたたかいながら、最後まで闘志を失わず、生涯をまっとうしたのである。面会に行った時、彼は心からうれしそう

に笑顔をつくっていたのが印象に残る。いまは平野氏の冥福を心から祈る。彼の悔しき、悲しみ、怒りを私たちのものとして必ずや「精神障害者」解放―差別社会変革をかちとることを心から誓うものである。



上手、下手関係なく楽しめたボーリング

「ヤングほっとスペース」のボーリング大会ー レベルは低かろうが楽しいボーリング大会

桃山桃源

「ヤングほっとスペース」は第一回、第
二回と順調に続き、第
三回を迎え
ることにな
りました。
来てくれた
メンバーの
十二人中五
人が初参加
ということ
で最初は緊
張した雰囲気
でした。
しかし、す
ぐに若者の
集まりらし
くすぐに打
ち解けて



早乙女 百合子さんのさっそうとした投球フォーム

が、多くの
参加があつ
てうれしい
限りでし
た。事前の
調査が充分
でなく、
ボーリング
場にレスト
ランが付属
していない
て参加者に
は心配をか
けました
が、近くの
ファミリ

レストラン
で食事を
とつてもさ
ほど時間的
なロスも無
く、ボーリ
ングすることができてほっとしまし
た。始つてみるとボーリングという
ことで盛り上がり、盛りに盛りがつて
とつても楽しく行ふことが出来まし
た。田川信さんのガッツポーズや堀
部さんの声援など、とてもじゃない
けど彼らといっしょの仲間だとは思
われたくない気分でした。ボーリン
グの結果是一位多田さん、二位は私
桃山桃源、3位は小池さんでした。
それで三人の名前をとつて郁ちゃん
と田駄でナイトウボーリング会とな
りました。



Ａさんが、喘息で苦しんでいるの知らんかった

ゴメン！ やつぱり「病」者よ

り、より弱い立場の人（例えば、喘息、妊婦など）の前で、堂々と吸っちゃダメだ。だから、せめて喫煙場

所では吸わせて。煙草がないとダメな人が多いから。

堀川望

ネガの方向はまずい。ポジのは、実にフアジーね）利用拠点

方に向けなければ。その上で、

「病」者、身体「障害」者、

「健常」者をどんどん巻き込ん

じゃおうよ。ほととの空間。あ

くまで拠点です、事務所は。最

初は、ギクシヤクすると思う

よ。でも、何らかの「関り」が

必要だと思う。「病」者は、孤

立しがち。いろいろな面で、疎

外されていると思う。そこで

「人間関係」が、よい方向にむ

けば（この良い方向というの



風通しの良い場にしようね、ほんとスペース王子

堀川望

桑本貴一の詰め将棋

「ほんと」紙上で詰め将棋を始めました。我と思わん方は挑戦してください。

持ち駒 角、金、香

(恋は王手！ 王手！)

5	4	3	2	1	
			王	王	一
			王		二
	金		香		三
		香		香	四

初対面の面々でも「ほっと」しました 開所後初めての料理教室



よく食べ、よくしゃべる料理教室

開所後初めての料理教室です。朝日新聞やアサヒタウンスで紹介されたこともあって、連日の問い合わせや相談案件が殺到して大変

でした。その中で「ほっとスペース八王子」恒例の料理教室に初めての方が数多く参加されました。事務所は二〇名以上の人員が入るだけのスペースはもちろんありません。開所後の食事は

はいまでは毎日のように行っています。多人数の食事は料理教室を兼ねて市民センターの調理室で行い、各人が自活し、自立生活を営めるようにすることと、多くの仲間同士での食事を通して交流や親睦を深めていつもは自分のことだけで頭がいっぱいになっている日常から少しでも社会性をつかむきっかけになれば良いと思っています。

今回のメニューはカレーと冷やし中華、それとギョウザでし

た。それぞれがとても美味しく、初めて参加された方も気軽に参加できたようです。ただ、あまりに参加者が多くて、一部で量が少ないという声もありましたが、優しい人ばかりなのでけんかにもならず仲良く歓談、歓食ができました。



おい、おいみんなの分も考えてくれよ

開所して思うこと

発起人会改め事務局

私たち発起人会は事務局として「ほっとスペース八王子」の事務運営に携わっています。まだまだ開所したばかりで、連日のように殺到する相談案件や問い合わせでそれに対応するだけでも大変です。それでも、毎日来所する仲間も増えてきて、ほとんど毎日のように昼食会、夕食会がもたれています。相談案件も三〇件を越え、それを検討する時間的余裕もないほどです。当初運営委員会は開所してからの事務所詰めのローテーションを決めたり、事務所の使い方などの議題が主でしたが、いまではようやく相談案件の検討会や毎日の運営についての反省会の様相も持ち始めています。

夢はふくらみ、やりたいことはたくさんあり、またやりたいことが次々と具体性を帯びてきていますが、いま現在山積している課題を整理しながら次の段階へと進めていくことは容易なことではありません。複式簿記のつけ方も覚えてきました。事務作業上のフアイリング等の整理方法も覚え始めています。ここで、新しく参加された方々も含め、「ほっとスペース八王子」のヴィジョンを全員で確認し、それを実現するための当面の方針などもみんな決めて行きたいと思っています。もちろん、いまの「寄り合い場所」としての「ほっと」のありかたのままでも良いと言われる方もいるでしょう。でも、やはり「ほっと」は「拠り

所」です。

まだまだ

「ほっと」

にさえ来ら

れない多く

の他の「精

神障害者」

のことに想

いを馳せて欲しいのです。退院促

進、自立・自活のための援助セン

ター機能と既存の精神医療では不可

能な「精神障害者」自身のアドバイ

スによる病とのたたかいの援助セン

ター機能を合わせ持ったセンターと

して進めていきたいのです。「寄り

合い場所」の側面も持ちながら次の

ステップへ進むにはどうすればよい

か、共に考えましょう。(八頁につづく)



そして、7月1日には「精神障害者」とセックスについての討論会なども行いました。開所した事務所で起きたセクハラをきっかけにして、ヤングを対象にした討論会でした。性の抑圧が原因の一つとして発病した多くの思春期発病者にとってこのテーマはとても大切なものです。ま

た、レイプされたことによって発病した女性「精神障害者」もまた後を絶ちません。参加者全員が本音でセックスについて議論しましたが、3時間に満たない時間では論じきれなかったのも当然だし、時間をかけて議論すべき課題だとも思います。今回参加できなかった人も次回にはぜひ参加を。

6月活動日誌

- 6・1 夕食会、運営委員会
2 夕食会、ニュース放送作業
3 昼食会、朝日新聞取材
4 「ヤングほっとスペース」ボーリング大会
夕食会（誕生会）
5 複式簿記講習会
6 「脳死」反対国会行動、水泳会
10 夕食会
11 病院面会行動
12 八王子市障害者福祉課訪問
13 東京都社会福祉振興財団の来訪
15 水泳会
16 夕食会（この日は相談案件が特に多かった）
17 「ほっとスペース八王子」全体会料理教室
19 夕食会
20 昼食会、夕食会
22 夕食会
23 夕食会
24 夕食会
27 夕食会
28 昼食会、夕食会
29 平野氏葬儀、事務局会議
30 昼食会
7・1 セクハラ討論会
4 昼食会、拡大交流会（みんなの部屋）
「ほっとスペース八王子」の今後
5 昼食会、夕食会
6 昼食会、みんなの部屋
（「ほっとスペース八王子」の今後2）
おやつ会、夕食会
10 助け合いワーカーズ・リボン来訪
夕食会、みんなの部屋
（「ほっと」設立の趣旨とは）
11 昼食会、夕食会
12 昼食会、夕食会、事務局会議
13 八王子社会福祉協議会来訪
昼食会、夕食会
みんなの部屋（「ほっと」の活動の柱）

編集後記



毎日が忙しい今月でした。開所して「ほっとスペース八王子」への期待がこんなに大きいとは正直言っているいませんでした。問い合わせ、相談案件が山積みです。とても対応できません。ニュースの発行も遅れがちです。なんとかこの危機を脱しないと「のんびりやろう」の「ほっとスペース八王子」が気合倒れになってしまいます。合言葉を実践しましょう。「頑張らずに、マイペースをつかめるように」したいものです。今号で開所後の財政報告をしようと思いましたが、次号にゆずります。ごめんなさい。